

# ミャンマーの人道危機と 「保護する責任」

**2023年2月17日（金） 15:30-17:00**

ミャンマーで軍事クーデターが発生して2年、国際社会の圧力にもかかわらず、軍政は市民への弾圧をいっそう強めています。市民の間では現在も抵抗運動が続けられています。ウクライナに世界の注目が集まる中で、ミャンマーの問題が忘れられているという焦りも募っています。世界には、日本には何ができるのかを考えます。

## ▶ プログラム

**15:30-15:45 開催の挨拶**

安野 正士 上智大学国際教養学部教授 上智大学国際関係研究所所長

**15:45-17:00 パネル・質疑応答**

### パネリスト

長 有紀枝

立教大学教授・「難民を助ける会」会長

ノエル・モラダ

クイーンズランド大学・保護する責任アジア

太平洋センター 地域外交・能力構築部門代表

メリー・カバレロ・アントニー シンガポール南海理工大學教授

非伝統的安全保障研究センター長

**コメンテーター：** 大庭 三枝 神奈川大学教授

政所 大輔 北九州市立大学准教授

**モデレーター：** 東 大作 上智大学グローバル教育センター教授

上智大学国際関係研究所所員

▶ **対象：** 学生、教職員、一般の方

▶ **言語：** 英語・日本語（Zoomで日英同時通訳有）

▶ **開催形式：** ハイフレックス 会場：上智大学四谷キャンパス6号館4階401教室

オンライン：zoomウェビナー（ご登録後に情報をご案内します）

▶ **要事前登録：** <https://eipro.jp/sophia/events/view/SIIR20230217>

**主催** The Asia Pacific Centre of the Responsibility to Protect (APR2P)

上智大学国際関係研究所（SIIR）、The R2P Network of Japan

**後援** 早稲田大学地域・地域間研究機構アジア・ヒューマン・コミュニティ（AHC）研究所

